

知多更女だより



「心豊かに生きられる明るい社会をめざして」

知多市 福祉子ども部 部長 花井 佳世

知多市更生保護女性会の皆様におかれましては、日頃から更生保護のボランティア活動の中で、優しさと深い愛情をもって、犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちを支えていただいております。また、青少年の健やかな成長を願い、非行を生まない安全で安心な地域づくりに向けた活動をされますとともに、市政全般にご理解とご協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。



さて、新型コロナウイルス感染症の国内発生から2年以上が経過していますが、いまだ収束したとはいええない状況が続いています。そのような中であっても、7月1日には「社会を明るくする運動」の街頭啓発活動を行うことができました。暑い中でしたが、更生保護女性会の皆様には多くご

参加していただき「非行防止にご協力を」との呼びかけと啓発物品の配布をしていただきました。別日には、更生保護女性会の活動として、ヤマナカ知多店、粕谷台店で、ミニ街頭啓発活動も開催していただきました。併せて感謝申し上げます。

また、更生保護女性会の皆様には、コロナ禍の中、思うように活動ができなかったとは思いますが、感染症対策をしっかり行い、各地区でミニ集会を開催し、活発な意見交換、勉強会が行われたこと、保育園・幼稚園では園児と交流するなど、「優しい母の心」「ほっとけない精神」で活動を行っていただいております。

今後も、犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちを支えるとともに、非行を生まない地域づくりに向けて、また、女性の持つあたたかさ、細やかさを生かし、子どもたちの健やかな成長を見守る等、心豊かに生きられる明るい社会をめざした活動にご協力いただきたいと思います。

最後になりますが、知多市更生保護女性会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

「会員の皆様の笑顔に感謝」

知多市更生保護女性会会長 伊藤 美恵子

会員の皆様には、いつも更生保護活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

コロナ禍の中でありましたが、令和4年4月27日に総会が開催されました。久しぶりにお会いした会員の皆様のお顔は、輝いてみえました。

7月の「社会を明るくする運動」では、街頭啓発を行い、4会場でのミニ集会では保護司さんの活動についてお話を伺いました。保護司の方々のボランティアでの仕事には、頭が下がりました。



安心安全な、「犯罪や非行防止・再犯防止」を目指した環境作りを推進して行きましょう。

令和3年度 被顕彰者

* 日本更生保護女性連盟会長表彰 *

伊藤 澄子

愛知県更生保護女性連盟結成 70 周年記念第 23 回“愛知県更生保護女性の集い”が、令和 3 年 10 月 28 日ウィルあいちにて表彰式が行われました。

70 周年となる記念の年に日本更生保護更生保護女性連盟会長表彰を受けて、身にあまる思いでいただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため縮小しての開催となり、実行委員の皆様は、大変ご苦労されたと思います。おかげさまで私達は温かい心遣いにより皆様方の挨拶言葉が会場の雰囲気を含んでくれました。

これが本当の更生保護女性会ボランティアの精神だと胸が熱くなりました。この心を大事に、地域に根付いた明るい社会の実現に努めていきたいと思っています。

* 名古屋保護観察所長感謝状 *

江端 みき

令和 3 年 10 月愛知県更生保護女性連盟 70 周年記念の期に名古屋保護観察所長感謝状をいただきありがとうございました。

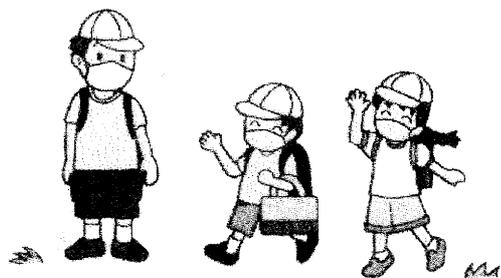
私が更生保護女性会の会員になって 7 年。何も分からないまま入会して、新人研修、ミニ集会、また、刑務所等の一日研修に参加して少しずつ更女の役割が見えてきました。

地区の活動は小学校校門でのあいさつ運動と地域内のパトロールを毎月 2 回行っています。

小学校のあいさつ運動では元気なあいさつにこちらが嬉しくなり、下向きの子にはこちらから元気になるよう「おはよう」「行ってらっしゃい」と。ただマスク顔なので笑顔が少し感じられないのが残念！

パトロールはコロナ禍のせいなのかあまり人と会いませんが、会員の提案でゴミ袋と火ばさみを持ち、ペットボトル・空き缶などを拾いながら歩いています。

会員同士も和気あいあい、強制せず、“できる人ができる時に参加する”という思いで、これからも微力ながら協力していきたいと思っています。



中村 カヨ子

表記の感謝状を頂ける喜びと同時に、「え!! 私で良いの?」と疑問もありました。

平成17年1月先輩にお願いされ、気軽に入会したものの、会の活動内容を知り、自分には荷が重く務めきれないのではと大きな不安にかられました。でも、お断りする事はできません。自分の力の範囲でお手伝いすることに。

会長さん始め会員さんたちに、助けられるばかりでしたが、今日まで続けてこられました。その事への御褒美と思い、今回の感謝状をお受け致しました。

いずれこの会を脱げますが、その後は、一個人として、会の精神を忘れず、誰かの役に立つことができるよう、努めてまいりたいと思っています。

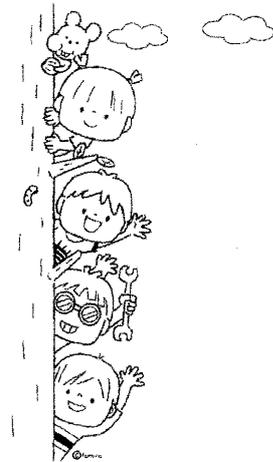
* 愛知県更生保護女性連盟会長表彰 *

蟹井 淳子

思いがけなく表彰していただき、ありがとうございました。

コロナ禍の影響で、活動が次々制限されてしまいましたが、更女の柱となる、更生保護、非行防止、子育て支援について考える機会をいただきました。

これまで引き継がれてきた、あいさつ運動、園児との交流等、できない日が続いていますが、コロナが収束し制限のない社会に戻りましたら、支え合い、ぬくもりのある社会に少しでもなれますように、地域に根差した活動を継続していきたいと思っています。



緒方 志保

この度は、愛知県更生保護女性連盟会長表彰をいただき、ありがとうございました。

本来であれば、令和3年11月19日、あま市甚目寺公民館にて行われた愛知県更生保護大会で表彰を受ける予定でしたが、コロナ禍のため、代表の方のみの参加となりました。

一進一退を繰り返す新型コロナウイルス感染症のため、様々な活動が制限を受け自粛を余儀なくされ、更女会の皆さんとお会いする機会がなくなりました。そのような中で思いがけない表彰をいただき、恐縮するとともに、これを励みに自己研鑽に努め、微力ではありますがお役に立てますよう、活動を続けていきたいと思ひます。

一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、更女会の皆さんと以前の様な活動ができますことを願っています。

松本 恵子

更生保護女性会に入会して早や8年が経ちました。このたび「愛知県更生保護女性連盟会長表彰」をいただきありがとうございました。

この3年近くが、新型コロナ感染で多くの行事が中止・縮小となり残念に思います。

以前は、京都、豊橋、金沢等への施設見学・研修会に参加し、貴重な体験をさせていただきました。更生保護の奥深さ、難しさを考えさせられたものでした。

このコロナ禍で地区小学校登校時のあいさつ運動において、子どもたちのマスク下の声、まなざしで、朝一番の元気をもらっています。

これからも健康に気をつけ、微力ながら活動していきたいと思っています。

*** 愛知県更生保護女性連盟会長感謝状 ***

久木 ちえ子

このたびは、感謝状をいただきありがとうございました。

私は、50年以上知多市に住んでいて何一つ社会にご恩返しができなくて残念に思っておりました。私には一番信頼し、尊敬している「Iさん」という方が近所にいらっしゃいます。この方が長年更女で活躍されているのを見て、私も協力したいと思い、入会させていただきました。

早いもので約20年になります。色々なことが思い出されます。「社会を明るくする運動」のピラ配り、幼稚園児とのお遊戯会、折り紙教室、施設の見学。幼稚園でのあいさつ運動は今も続けています。「おはよう」「おはよう」と声をかけ、私たちが元気をもらっています。最近、お父さんが送ってこられるのを見て、温かいご家庭だなあと想像します。

私も後期高齢者の仲間入りをしました。身体が続く限り更生保護の仕事をさせて頂こうと思っております。

☆下記の方々も、「愛知県更生保護女性連盟会長感謝状」を受けられました☆

山田 順子

成井 和子

野々部 和子

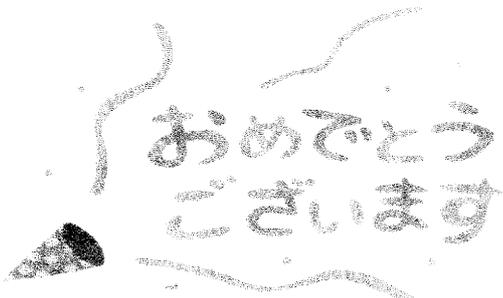
伊藤 俣子

伊藤 厚子

家田 房子

小林 万里

(敬称略)



令和3年度地区役員研修会に参加して

板倉 福美

令和3年12月2日ウィルあいち大会議室にて、令和3年度地区役員研修会が57名の参加により開かれました。

愛知県更生保護女性連盟会長・大津知美様のご挨拶から始まり、名古屋保護観察所民間活動支援専門官・沖隆宏様の講義、更女会のボランティア活動2件の報告を伺いました。

専門官・沖様から「社会を明るくする運動」更生保護出張講座で『立ち直りを支える仕組み』についてお聞きしました。罪を犯した人の社会復帰、立ち直りの難しさ、大変なこと、だからこそ犯罪を予防することが大切だということ。昨年暮れの新聞記事に「卒寿の受刑者」の記事の掲載がありました。若者だけでなく、裕福な高齢者でも犯罪を犯してしまう。「孤高齢化」ともいえる問題があるといいます。特にこのコロナ禍、社会から取り残された人、生活に困窮して生きる意味をなくした人、生きづらさを抱えている若者。そして、そんな高齢者が多くなっている現実、研修会に出ささせていただき、改めて考えさせられました。更女の役割が、そこにあることを確認した次第です。

今は、ボランティア活動もままならない時ですが、そんな中でもやれることを探っていけたらと思います。

貴重な研修に出ささせていただき、ありがとうございました。

更生保護女性会新会員研修会に参加して

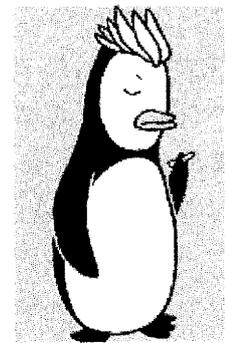
太田 仁美

研修会はコロナまん延防止等重点措置が発出された、令和4年1月21日にウィルあいちで開かれました。間隔をしっかりと取り、窓全開の広い会場でした。

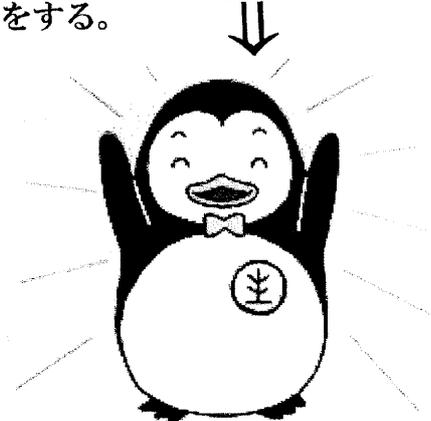
始めに更生保護制度のお話。ペンギンがシンボルマークの意味（空を飛べない＝飛行（非行）しない）。犯罪件数は減っているが、更生保護を担ってくださる方も減っている現状。

次に、愛知県更生保護女性連盟副会長のお話。コロナ禍で活動がしにくい中、理事会を月1回はすると決めて、家の中で出来ることをする。アイデアを出し合い、施設へ困りごとを尋ね、全会員でマスク作りやシトラスリボン作りをした。前準備がとても大切で、作り方をひとつずつ手順を渡して、布を切る人、縫製する人、ゴム通しする人等々、できることを分業体制での活動のお話でした。

自分のできることで、何か世の中の役に立てることをしたいと思っている人の、その持てる力が、うまく繋がるといいなと思いました。



非行ペンギン



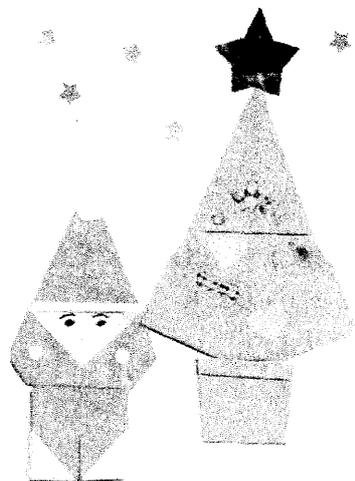
更生ペンギン

東部地区親子ひろば交流会に参加して

山本 時子

令和3年12月4日(土) 亥新田公会堂にて「親子ひろば園児交流会」を開催しました。

今年もコロナ禍で、人と人とのふれあいが制約されての開催でしたが、たくさんの親子に参加していただきました。参加にあたり、三密を避け、消毒、マスク着用と感染防止の徹底、協力をお願いしての開催でした。



今回は、事前に折り紙でサンタクロースとツリーを折って準備。各袋にシールと共にに入れて子どもたちに渡し、台紙に貼ってもらう形にして、短時間で作製できるよう工夫しました。それぞれ個性的なサンタさんの色紙が完成しました。親子で完成した色紙をうれしそうに持ち帰られる姿を見て、開催できてよかったと感謝と感動でいっぱいでした。

これからもみなさんが喜んで参加していただけるように「自分たちにできること」を考え、協力し、みんなで活動していきます。

知多市更生保護女性会総会

鈴木 千賀子

知多市更生保護女性会に入会させていただいて、6年になります。最初の頃はどんな活動をして良いのか分からないまま、今回の役員としてのお仕事となり、不安のスタートでした。

途中新型コロナウイルス感染症という大変な時期もあり、皆様との親睦会も少なく残念に思いました。総会も資料を配るのみでしたが、会長はじめ皆様の目に見えないところでの努力により、令和4年度の総会を開くことができ大変嬉しく思います。

私たちの地域では夕方のパトロールで、多くの捨てられたゴミなどを拾うこと、少しでも自然環境に役立つこと、事故や犯罪に巻き込まれない生活を願っています。また、朝の小学校の門で、子どもたちと元気よくあいさつ運動もしています。

これからは、今まで中止になっていた活動も少しずつ元に戻れるよう、皆様と共に頑張っていきたいと思っております。



第72回 「社会を明るくする運動」ミニ集会

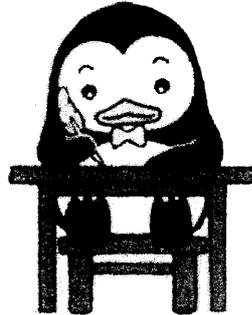
八幡・つつじが丘・新知地区

平松 美代子

7月13日(水)八幡・つつじが丘・新知地区の合同ミニ集会を、伊藤会長、保護司さんに参加いただき行いました。

八幡の早川さん・伊藤さん、つつじが丘の岩見田さん、新知の土師さんに保護司の活動内容等についてお話を伺いました。

保護観察を受けている方の社会復帰のため、仕事探しや、時には衣食住のお世話もされるそうです。また月2回の面接をし、生活状況の報告を受けて相談に乗ったり、指導をしたり、自立支援も行います。これは全てボランティアで、長い方は10年以上も保護司の活動をされている方がみえました。長く続けることは大変なことだと思います。保護観察の間も不安を抱えながら立ち直ろうとしている人が、一日も早く社会復帰できるようにお手伝いできたらと思います。



東部地区

竹内 敦子

7月20日、東部福祉会館にて「社会を明るくする運動」ミニ集会が開催されました。今回、東部地区で現在活動されている保護司3名の方に出席して頂き、お話を伺いました。

保護司とは、保護司法に基づき法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員で、ボランティア。給与は支給されないとのことを知りました。犯罪を犯した人と月に数回面接をし、見守り相談に乗ったり指導をする事が主な仕事です。大変な仕事に頭が下がる思いでいっぱいになりました。

また、お話を伺う中で、個別に面接をした人について、「本当に普通の良い子が多いです。家庭環境による原因だったり、ほんの少しのきっかけで何かが違って、こんな状況になってしまったと思います。」と話されたことが、とても印象に残っています。

立ち直りを地域の中で見守り、安心して暮らすことができる環境を作っていくことが大切だと、改めて強く思いました。

佐布里・にしの台地区

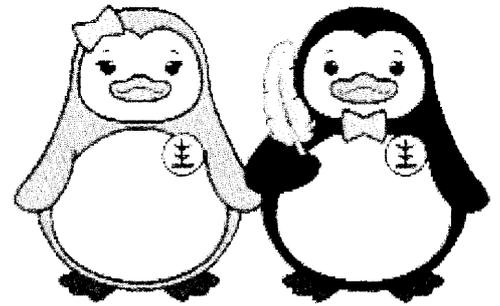
濱嶋 妃都美

二日後に地区の盆踊り大会を開催する7月21日に、3名の出席でミニ集会が始まりました。

南條保護司さんに講師をお願いし「お話を聞く会」にしました。題目は「人はみな、生かされていきゆく。―保護司制度と保護司の活動について―」です。資料を交えながら詳しくお話ししてくださいました。興味深く、勉強になりました。いつの間にか外は雨が本降りになっていましたが、雨音に気づかず夢中で話し合っていました。

今後、より多くの方が参加できる方法を工夫したいと思いました。

最後に、南條保護司さんにお礼申し上げます。「お忙しいのに貴重な時間をありがとうございました。」



更生ヘンキンの
サラちゃん

更生ヘンキンの
ホゴちゃん

旭地区

竹内 奈美江

令和4年7月21日(木)、知多市こども未来館会議室において、ミニ集会が開催されました。

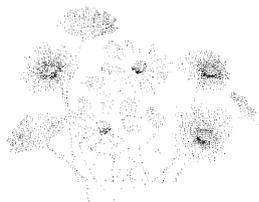
当日は「第7波」コロナ禍ではありましたが、17名の会員が参加し、知多市保護司会会長・石井将和様と、同副会長・村上吉徳様から「人はみな、生かされて生きてゆく。―保護司制度と保護司の活動について―」と題して保護司活動の概要を伺い、過ちに陥った人たちの更生のために地域で支えている多くの方々がいることを学びました。

また、後半は子育て支援の在り方の観点から「絵本の読み聞かせ」を会員の吉川徳子さんと石井和子さんが披露され、軽やかなテンポの語り口に、最近は忘れてしまっていた幼い頃の心地よさを思い出すことができました。

今後の更女会活動に、今日の学びを活かしていきたいです。

編集後記

令和3年度もコロナ禍で、更女活動が思うように行うことができませんでした。一日も早くコロナが終息し、また今までのように活動ができ、更女だよりにたくさんの記事が掲載できるようになればと、切に願っております。



発行責任者：伊藤美恵子 〈0562-55-2806〉

編集委員：伊藤澄子 伊藤つな子 吉川徳子 石井和子